学校番号	111

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史 B	単位数	5	年次	3
使用教科書	「日本史 B 新訂版」　（実教出版）						
副教材等	最新「日本史図表」　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歴史は何の役に立つのか？」という問いかけに対し、１年間を通してそれを考え、自分自身の答えを出してみる。
・２年次の世界史 A の成果と３年次の日本史演習と連携して、主に近世・近代の基礎的事項と流れを理解する。その際、世界史、特に東アジア史からの視点や地域史からの視点を取り入れながら、日本史の全体像をとらえ、同時に現在の日本の諸事象や諸課題を歴史的に考えてみる。
・各時代の歴史の事象やその変化に対して、「なぜ？」と問う精神で、歴史事象に向き合う。

2　学習の到達目標

・考古資料・遺物・遺跡・建造物や活字史料、絵画史料、民俗資料、諸データなどを通して歴史的事実を自ら読み取り、日本史像を考察することができる。
・現代に生きる文化や習慣、伝統などがどのように形成されてきたのかを考える。
・２年次の世界史 A の学習成果を生かし日本史を広い視野からながめるとともに、日本列島各地の地域的差異も含めて多面的に歴史像を追究していく。
・上記の課題学習を通して国際社会に生きる日本国民の自覚とそのあり方について構想していく。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近世における近代の萌芽、近代における現代日本の政治社会の起点を見つめ、特に現在の平和・民主主義・人権などの現代日本の諸課題の歴史的展開をながめ、国際社会に生きる日本国民のあり方を構想し、同時にその自覚を養う。	現在の日本社会に生きている伝統や文化・芸能、生活習慣、政治制度や経済のしくみを近世・近代史の展開の中から読み取り、その価値や現在及び未来への課題を考える。その一方で現在との差異とその理由なども考える。	考古資料・遺物・建築物・活字史料・民俗資料・絵画史料、映像資料などから歴史事象や人物の行動、政治の展開、経済活動、生活習慣や文化の実態を読み取ることができる。	左記のａｂｃの活動、とりわけｃの活動を通して、歴史事項、特に教科書記載の事項をことばの暗記だけでなく、多面的に理解させる。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート ノート提出	定期考査 ワークシート ノート提出	定期考査 ノート提出
	振り返りシート（プリント及びノート）	レポート及び討論・発表・報告	史料（資料）の読み取りのレポート及び発表	基本的歴史事項のまとめ(プリント及びノート)
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。また、ノートには板書事項だけでなく、調べたことや思考の過程なども記録させる。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	戦国大名の領国経営	戦国の争乱 領国経営 都市の発達と町衆	○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:導入として、TV ドラマ、小説で戦国大名が頻繁に題材となる背景と戦国時代に対する現代人の歴史感覚をみていく。 b: 大阪地域の堺や富田林寺内町などの現在の都市の起点をこの時期にみる。また、有力戦国大名が畿内地域には少なく周辺地域に多く登場することを考察しながら、戦国時代の実相を確認してみる。 c:分国法や戦国大名の分布図で大名の歴史的実態を確認。 d:戦国大名の登場による、地域の自立と近世への移行を確認。	定期考査 ワークシート ノート提出
	幕藩体制の展開と近世の文化	①ヨーロッパ人の来航 ②織豊政権 ③桃山文化 ④幕藩体制の成立 ⑤鎖国 ⑥近世の生活と文化	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:織田信長・豊臣秀吉・徳川家康による全国統一の過程を通し、中世から近世への移行と、その変化への注目と関心を高める。 b: 織田信長の統一事業、秀吉の検地・刀狩と社会の変化、江戸幕府の大名統、中世の村と近世の村の比較、「鎖国」の実態などの近世前期についてのテーマを設定して、討論や報告を行う。 c:安土城・大坂城、三都や各地の城下町の画像や近世の絵画史料を活用して時代像を読み取る。 d:織豊政権・太閤検地、江戸幕府の成立の政治過程や村や町などの社会の変化、文化の成立を多面的にながめ、時代像をつかむ。	定期考査 ワークシート ノート提出

	幕藩体制の動揺と文化の成熟	①幕府政治の転換 ②経済の発展 ③学芸の発展と元禄文化 ④幕藩体制の動揺と幕政の改革 ⑤欧米列強の接近と天保の改革 ⑥江戸中･後期の文化	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ 	a:幕府政治に関わった人物のエピソードや貨幣や大坂などの都市の絵図･浮世絵などの実物･視聴覚教材などを活用して江戸時代前中期の反映をイメージ化していく。 b:近世の農業技術や交通の発達、都市の繁栄などを農具の新旧比較、絵画や絵図から交通の様子・都市の構造を読み取り、討論・報告。 c:幕政改革の内容と時代背景を史料やデータを使い読み取る。天保の改革で江戸時代後半の「内憂外患」を実感させる。 d:幕府政治と経済社会の発展と幕府政治の行き詰まりから崩壊までを通史的に概観する。	定期考査 ワークシート ノート提出
2学期	近代への転換	①開国 ②明治維新 ③四民平等と富国強兵 ④初期の外交と国内政治 ⑤文明開化	○ ○ ○	○ ○ 	 ○	○ ○ ○ ○ 	a:ペリーの「黒船」に関する伝聞や史料、地図、絵画などを活用して「開国」の導入とする。 b:開国から明治政府成立とその政策までの過程を、尊王攘夷派・佐幕派・大名・下級武士・民衆その他様々な立場の視点から、年表や諸史料（資料）・データ等を使って考察。その際に欧米列強とアジアの動きを関連させる。 c:大阪砲兵工廠や富岡製糸場など官営工場をとりあげ、その実態を資料・絵画・映像資料を使い考察・発表する。 d:幕末維新、明治新政府の諸政策、国境の画定と泰アジア外交などを年表（作成）・地図を活用して確認していく。	定期考査 ワークシート ノート提出

	近代国家の形成	①民権運動の展開 ②立憲政治への道 ③初期議会と日清戦争 ④政党の進出と日露戦争 ⑤産業革命と社会の変化 ⑥近代文化の形成と展開	○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a:自由民権運動とこれまでの士族反乱や江戸時代の百姓一揆との違いを考えてみる。 b:大阪紡績会社などの具体的な工場を例に取り、これまでの工場とどこが異なり斬新なのか、データ・絵画史料などを駆使して考察・発表する。 c:八幡製鉄所など、産業遺跡や明治初期の学校の建物、文明開化期の錦絵などを活用して、近代化の実相を確認していく。 d: 自由民権運動～大日本帝国憲法制定～日清日露戦争までの政治過程を中心に教科書・年表を使い事実確認をする。	定期考査 ワークシート ノート提出
	両大戦間の日本と市民文化	①第一次世界大戦 ②大戦後の内外環境 ③政党政治の展開 ④市民文化の展開	○ ○ 	 ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	a:第一次大戦はなぜ「世界大戦」なのか考えさせ、関心を高めたり、また、関東大震災の実態と現在の防災問題なども関連づけて興味を喚起する。 b:大正期の社会運動の多様化・護憲運動や米騒動の広がり、東アジアの動向の背景を年表・地図・資料などから考察・発表。 c:大正期の文化や都市や農村での生活の変化を当時の雑誌や映像・資料を通して考察。 d:教科書・資料集を通して、政党の成長とその基盤、社会運動の活発化、大衆社会の成立と生活文化などに着目して、政治の動向及び文化の特色を理解させる。	定期考査 ワークシート ノート提出

	十五年戦争と日本	①満州事変 ②日中戦争 ③アジア･太平洋戦争	○	○	 ○	○ ○ ○	a:「満洲」の位置と近代以降の日本との関わりを年表などで確認、学習への導入と関心を持たせる。他に原爆投下と現在の核兵器問題を関連づけて興味・関心を喚起させる。 b:世界恐慌と日本が取った打開策は？満州事変はどのように引き起こされたのか？日中戦争はどのように戦われたのか？アジア太平洋戦争は国民をどのように動員したか、戦争の実態は？戦争で国民生活はどのようになったか？などテーマ設定し、報告・発表。 c:原爆投下の原因・被害・被爆の実態を資料・地図から考察。 d:15 年間の戦争は日本の政治・経済・国民生活になにをもたらしたか、再度事実を教科書・年表・資料から確認。	定期考査 ワークシート ノート提出
3学期	現代の日本と新しい文化	①占領と民主改革 ②サンフランシスコ講和会議と安保体制 ③高度経済成長下の日本 ④経済大国と国民生活 ⑤世界史の転換と日本	 ○ 	 ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:一例として、2020 年予定と 1964 年開催の「東京オリンピック」の世相をとりあげる等して、戦後においても、現在と当時の歴史的変化を確認できる歴史事象を介して、現代史学習への意欲・興味・関心を喚起する。 b:日本が現在･未来においてどんな役割を果たしていくのか、戦後の歴史と関連させて考察。 c:現在の日常生活の様式や身の回りの物品を例に取り、その普及が戦後にあるものを見つけ、その普及以前の状況も考え、経済発展や生活の向上を眺める。 d:ｂと関連づけて、1 年間を通して、歴史を学んだ意義について自分自身の答えを出してみる。	定期考査 ワークシート ノート提出

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。